

Syllabus

開講年度	開講学部等				
2020	共通教育				
開講学期	曜日時限	授業区分	AL(アクティブ・ラーニング)ポイント	YFL育成プログラム	
前期	水9~10		1.6ポイント		
時間割番号	科目名[英文名]				単位数
1001050005	キャリア教育 [キャリア教育] [Career Education]				1
担当教員[ローマ字表記]					
平尾 元彦 [HIRAO Motohiko]					
授業科目区分	対象学生	理3年次	対象年次	~	

持続可能な開発目標 (SDGs)



開設科目名(英訳)

Career Education

使用言語

日本語

概要(共通教育の場合は平易な授業案内)

キャリアを学ぶことにより、将来への希望を見出すとともに、学業への意欲を高めることを目的とする。卒業後の進路を意識し、就職活動の準備に役立つ内容を含む。全8回を隔週開講を基本とする。

一般目標

自分のキャリアを考えることの重要性を理解し、その方法論習得する
 働く前に知っておくべき経済・社会・企業に関する基礎知識を習得する
 社会人基礎力の重要性を理解し、高めるための方法を学び、実践への意識を高める
 キャリア意識を高め、学業ならびに就職活動への意欲を増す

授業の到達目標

知識・理解の観点	働くことにかかわる経済・社会・企業に関する知識
思考・判断の観点	自分のキャリアを自分で考えるための思考力
関心・意欲の観点	キャリア選択に関する意欲、働くことに関する意欲

授業計画

講義および課題レポート(宿題)を通じて、自分のキャリアを考える

【週単位】

※AL(アクティブ・ラーニング)欄に関する注

①A~Fのアルファベットは、以下の学修形態を指しています。

【A:グループワーク】、【B:ディスカッション・ディベート】、【C:フィールドワーク(実験・実習、演習を含む)】、【D:プレゼンテーション】、【E:振り返り】、【F:宿題】

②【多】、【中】、【少】は授業時間内におけるALが占める時間の割合を指しています。

【多】:授業時間の50%超、【中】:授業時間の15%~50%、【少】:授業時間の15%未満。「振り返り」と「宿題」については該当する場合に【あり】と表示されます。

項目	内容	授業外指示	授業記録	※					
				A	B	C	D	E	F
第1週	ビジネスを学ぶ			—	—	—	—	【あり】	【あり】
第2週	就職活動とインターンシップを学ぶ			—	—	—	—	【あり】	【あり】
第3週	就職活動とキャリアを学ぶ			—	—	—	—	【あり】	【あり】
第4週	働くために必要な力を学ぶ			—	—	—	—	【あり】	【あり】

第5週	企業の採用活動を学ぶ				—	—	—	—	【あり】	【あり】
第6週	キャリア学習 ★学部別・テーマ別を実施				—	—	—	—	【あり】	—
第7週	キャリア学習 ★学部別・テーマ別を実施				—	—	—	—	【あり】	—
第8週	働く制度とキャリアを学ぶ まとめ レポート提出				—	—	—	—	【あり】	—

1.6ポイント

成績評価法

毎回提出を求めるミニレポートのほか、課題レポート(宿題)で評価する。

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	JABEE収集資料
定期試験(中間・期末試験)	—	—	—	—	—	—	—	—
小テスト・授業内レポート	—	—	—	—	—	—	—	—
宿題・授業外レポート	◎	◎	◎	—	—	—	100%	—
授業態度・授業への参加度	—	—	—	—	—	—	—	—
受講者の発表(プレゼン)・授業内での制作作品	—	—	—	—	—	—	—	—
演習	—	—	—	—	—	—	—	—
出席	—	—	—	—	—	—	欠格条件	—
その他	—	—	—	—	—	—	—	—

	ファイル名	備考
ルーブリック等の評価基準	設定されていません。	

(注)ルーブリックとは、評価水準である「尺度」と、尺度を満たした場合の「特徴の記述」で構成される評価指標のことを言います。

教科書にかかわる情報

教科書その他の情報

参考書にかかわる情報

参考書その他の情報

メッセージ

講義で学ぶほか5つの課題レポートを課す。これはキャリア形成のために必要となる思考トレーニングである。ここで学んだことは、各自の就職活動にて実践してほしい。

キーワード

キャリア 就職 インターンシップ

持続可能な開発目標(SDGs)

SDGs4(教育)すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する。

SDGs8(経済成長と雇用)包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する。

関連科目

連絡先

就職支援室(共通教育棟1階)

オフィスアワー

Syllabus

開講年度	開講学部等			
2020	共通教育			
開講学期	曜日時限	授業区分	AL(アクティブ・ラーニング)ポイント	YFL育成プログラム
前期前半	水9～10	講義	4.9ポイント	
時間割番号	科目名[英文名]			単位数
1001020021	データ科学と社会 I [データ科学と社会 I] [Data Science and Society I]			1
担当教員[ローマ字表記]				
川俣 純 [KAWAMATA Jun]				
授業科目区分	対象学生	理(生化)	対象年次	1～

開設科目名(英訳)

Data Science and Society I

使用言語

日本語

概要(共通教育の場合は平易な授業案内)

ICTを最大限に活かしたサービスが次々と生まれ、人々の生活に豊かさをもたらす「超スマート社会」が現実のものになってきている。この新しい価値を創造しているのは、広範囲かつ目的に整合したデータの取得と、そのデータを解析し問題解決を行うという科学的な方法論、すなわちデータサイエンスである。

この講義では、データサイエンスが人間社会の発展に大きく貢献していることを知り、データ取得のための情報検索方法を学習したうえで、集めたデータを分析し、レポートにまとめ、表現するためのツールの利用方法を修得する。

一般目標

現代社会をけん引するデータサイエンスを知り、その基本ツールである文書作成・表計算・プレゼンテーションのソフト群の利用に慣れ、インターネットや文献からの情報取得方法についても修得する。

授業の到達目標

知識・理解の観点	(1)データサイエンスが現代社会に貢献していることを説明できる。 (2)身近な情報源である図書からのデータ取得方法を説明できる。 (3)データ収集と分析により、新しい価値が創造できることを説明できる。
思考・判断の観点	(1)文書作成ソフトを使った推敲作業による思考ができる。 (2)表計算ソフトを使ってデータが持つ意味を判断できる。
関心・意欲の観点	(1)パソコンを積極的に用いて、自分が修めようとする学問分野のデータ収集、分析、まとめを行うことができる。
技能・表現の観点	(1)パソコンやデータを適切に管理できる。 (2)パソコンを用いて、文書作成、表計算、プレゼンテーションができる。 (3)データの集計や分析を行うことができる。 (4)メール等を用いて、適切なコミュニケーションができる。

授業計画

入学時では、学生によってパソコン操作の習熟度は異なるであろうが、大学での学習では、知識やデータを取得し、分析し、利用し、考えをまとめ、発表するという作業は日常的に行われる。そのための基本ツールである、文書作成ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトは、全ての学生が一定以上の利用スキルを身に付けておく必要がある。そこで、これらの操作について演習を主体にした授業を行う。

データサイエンスの意義について知るため、この分野を先導する研究者や産業界のプロフェッショナルによるビデオ講義を行う。また、知識やデータの収集のための、学内のインターネット環境の利用法や図書館での情報検索についての講義や実習も行う。

※以下の表の第2週および第3週はデータサイエンス関連授業であり、これらの授業が行われる週はクラスによって異なる。したがって、必ずしも以下の表の順番で授業が行われるとは限らない。

【週単位】

※AL(アクティブ・ラーニング)欄に関する注

①A～Fのアルファベットは、以下の学修形態を指しています。

【A:グループワーク】、【B:ディスカッション・ディベート】、【C:フィールドワーク(実験・実習、演習を含む)】、【D:プレゼンテーション】、【E:振り返り】、【F:宿題】

②【多】、【中】、【少】は授業時間内におけるALが占める時間の割合を指しています。

【多】:授業時間の50%超、【中】:授業時間の15%～50%、【少】:授業時間の15%未満。「振り返り」と「宿題」については該当する場合に【あり】と表示されます。

項目	内容	授業外指示	授業記録	※
----	----	-------	------	---

					A	B	C	D	E	F
第1週	・オリエンテーション ・パソコンやデータの管理方法 ・本学 IT サービスの利用方法 ・マナーについて	・オリエンテーション ・パソコンやデータの管理方法 ・本学 IT サービスの利用方法 ・マナーについて ・本演習の進め方や成績評価方法 ・本学の IT サービスの利用方法 ・パソコンのセキュリティ対策 ・データの管理方法			—	【少】 (授業時間の15%未満)	【中】 (授業時間の15%~50%)	—	【あり】	【あり】
第2週	Wordの使い方	1.文書入力・編集の基礎 2. 箇条書き、罫線と表 3.テキストボックス 4.文書作成演習			—	—	【多】 (授業時間の50%超)	—	【あり】	【あり】
第3週	Excelの使い方	1.セル入力の基本操作 2.数式の記述法 3.よく利用される関数 4.範囲指定とグラフの描画 5.表とグラフの作成演習			—	—	【多】 (授業時間の50%超)	—	【あり】	【あり】
第4週	データサイエンス講義	先導的研究者や産業界のプロフェッショナルによるビデオ講義			—	—	【少】 (授業時間の15%未満)	—	—	—
第5週	PowerPointの使い方その1	PowerPointによるスライドとスライドショーの作成方法を解説し、演習を行う			—	【中】 (授業時間の15%~50%)	【中】 (授業時間の15%~50%)	【中】 (授業時間の15%~50%)	—	【あり】
第6週	PowerPointの使い方その2	PowerPointによりスライドとスライドショーを作成し、発表を行う			—	【中】 (授業時間の15%~50%)	【中】 (授業時間の15%~50%)	【中】 (授業時間の15%~50%)	—	【あり】
第7週	PowerPointの使い方その3	PowerPointによりスライドとスライドショーを作成し、発表を行う			—	【中】 (授業時間の15%~50%)	【中】 (授業時間の15%~50%)	【中】 (授業時間の15%~50%)	—	—
第8週	図書館実習	・文献検索の目的 ・様々な資料の種類と文献の探し方 ・文献検索演習 ・その他、サービス紹介			—	—	【多】 (授業時間の50%超)	—	—	—

4.9ポイント

成績評価法

主にレポートおよび出席で成績を評価する。なお、出席については原則として2回以上の欠席をした場合は単位を認めない。

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	JABEE収集資料
定期試験(中間・期末試験)	—	—	—	—	—	—	評価に加えず	—
小テスト・授業内レポート	—	—	—	—	—	—	評価に加えず	—
宿題・授業外レポート	◎	○	◎	—	◎	—	20%	—
授業態度・授業への参加度	—	—	○	—	—	—	10%	—
受講者の発表(プレゼン)・授業内での制作作品演習	—	◎	—	◎	—	—	欠格条件	—
出席	—	—	◎	—	—	—	70%	—
その他	—	—	—	—	—	—	欠格条件	—

	ファイル名	備考
ルーブリック等の評価基準	設定されていません。	

(注)ルーブリックとは、評価水準である「尺度」と、尺度を満たした場合の「特徴の記述」で構成される評価指標のことを言います。

教科書にかかわる情報

教科書その他の情報

必要に応じて、山口大学「情報処理テキストWeb版」等も利用する。
メディア基盤センターが刊行した「ネットワークマナーブック」(無料)も利用する。この書籍は授業の中で配布する予定。

■ 参考書にかかわる情報

■ 参考書その他の情報

参考書は随時授業の中で紹介する。

■ メッセージ

・受講者のパソコンに対する知識は仮定せず、初めて使うものとして授業を行う。

■ キーワード

情報教育 ICT 情報リテラシー 情報モラル 情報セキュリティ

■ 関連科目

データ科学と社会 I I

■ 連絡先

理学部434号室

■ オフィスアワー

随時

Syllabus

開講年度	開講学部等			
2020	共通教育			
開講学期	曜日時限	授業区分	AL(アクティブ・ラーニング)ポイント	YFL育成プログラム
前期後半	水9~10	講義		
時間割番号	科目名[英文名]			単位数
1001020044	データ科学と社会Ⅱ [データ科学と社会Ⅱ] [Data Science and Society Ⅱ]			1
担当教員[ローマ字表記]				
内野 英治 [UCHINO Eiji], 野崎 隆之 [NOZAKI Takayuki], 韓 先花, 大橋 聖和 [OOHASHI Kiyokazu], 塚本 真由 [TSUKAMOTO Mayu], 原田 由美子 [HARADA Yumiko]				
授業科目区分		対象学生	理	対象年次
				1~

開設科目名(英訳)

Data Science and Society II

使用言語

日本語

概要(共通教育の場合は平易な授業案内)

この講義では、データサイエンスについての理解を深めるため、数理・情報系の研究者によるデータから新しい知識や事実を得る方法論の解説、情報系企業の技術者やマネージャーによる事業へのデータサイエンス活用事例の紹介、学生の専攻分野を専門とする教員によるデータに基づく研究事例の解説を行う。さらに、情報セキュリティ、情報倫理や法規など、超スマート社会に適応するために必要な事項を説明する。

一般目標

データサイエンスが社会の発展に役立つこと認識し、その基本的な原理を知る。また、情報セキュリティや情報倫理、法規を学ぶ重要性を知り、超スマート社会に適応するために必要な作法を会得する。

授業の到達目標

知識・理解の観点	(1) 情報のデータとしての意味を理解し、その有用性と危険性を説明できる。 (2) データサイエンスの原理について簡単に説明できる。 (3) データサイエンスが社会の発展に貢献していることを説明できる。 (4) データサイエンスでは、情報セキュリティや情報倫理、法規等の理解と遵守が不可欠であることを説明できる。
思考・判断の観点	(1) データサイエンス的思考により新しい価値創造がなされることが理解できる。 (2) 情報セキュリティや情報倫理、法規等の観点から、自己のとるべき行動を判断することができる。
関心・意欲の観点	(1) 専攻する学問におけるデータに基づく研究に関心を示し、その手法や技術を学習する意欲をもつ。

授業計画

データサイエンスについての理解を深めるため、この分野を研究する教員や情報産業に従事する技術者等による講義を行う。また、超スマート社会に適応して生活していくために必要な作法やルールについて学習する。

※以下の表の第2週、第6週、第7週に示した授業は、クラスによって実施される週が異なる。従って、以下の表の順番で授業が行われるとは限らないことに注意。

【週単位】

※AL(アクティブ・ラーニング)欄に関する注

①A~Fのアルファベットは、以下の学修形態を指しています。

【A: グループワーク】、【B: ディスカッション・ディベート】、【C: フィールドワーク(実験・実習、演習を含む)】、【D: プレゼンテーション】、【E: 振り返り】、【F: 宿題】

②【多】、【中】、【少】は授業時間内におけるALが占める時間の割合を指しています。

【多】: 授業時間の50%超、【中】: 授業時間の15%~50%、【少】: 授業時間の15%未満。「振り返り」と「宿題」については該当する場合に【あり】と表示されます。

項目	内容	授業外指示	授業記録	※					
				A	B	C	D	E	F
第1週	<ul style="list-style-type: none"> この授業のオリエンテーション コンピュータと情報処理 情報の流通とデータサイエンス インターネットによるデータの流通 データの蓄積とデータサイエンス 								

第2週	データサイエンスの基本技術	データを処理し、新しい知見を得るための基本技術を平易に解説する。								
第3週	情報セキュリティ	・インターネットに潜む危険 ・情報セキュリティとCIA ・個人レベルの情報セキュリティ対策								
第4週	データ・AI利活用の法規と倫理1	・個人のデータと法規 ・統計法								
第5週	データ・AI利活用の法規と倫理2	・データ収集・利活用と倫理 ・データサイエンスと様々なバイアス ・その他法規								
第6週	企業でのデータサイエンス活用例	企業ではどのようなデータを収集・分析することによって事業に活用しているのかについて、企業の方に講義をしていただく。								
第7週	専攻分野におけるデータ活用研究例	学生の所属学部、所属学科等の教員による研究事例の紹介								
第8週	まとめ	この講義のまとめを行う								

成績評価法

授業内外のレポートによって成績評価を行う。

欠席は1回まで認めるが、2回以上欠席した場合は原則として単位を認定しない。

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	JABEE収集資料
定期試験(中間・期末試験)	—	—	—	—	—	—	—	—
小テスト・授業内レポート	◎	◎	○	—	—	—	70%	—
宿題・授業外レポート	◎	◎	○	—	—	—	20%	—
授業態度・授業への参加度	—	—	○	—	—	—	10%	—
受講者の発表(プレゼン)・授業内での制作作品	—	—	—	—	—	—	—	—
演習	—	—	—	—	—	—	—	—
出席	—	—	—	—	—	—	欠格条件	—
その他	—	—	—	—	—	—	—	—

	ファイル名	備考
ルーブリック等の評価基準	設定されていません。	

(注)ルーブリックとは、評価水準である「尺度」と、尺度を満たした場合の「特徴の記述」で構成される評価指標のことを言います。

教科書にかかわる情報

教科書その他の情報

参考書にかかわる情報

参考書その他の情報

メッセージ

キーワード

関連科目

Syllabus

開講年度	開講学部等			
2020	共通教育			
開講学期	曜日時限	授業区分	AL(アクティブ・ラーニング)ポイント	YFL育成プログラム
前期前半	金7~8	講義	6.5ポイント	
時間割番号	科目名[英文名]			単位数
1001150003	知的財産入門 [理学部生のための知財入門] [Introduction to Intellectual Property]			1
担当教員[ローマ字表記]				
李 鎔璟, KUCHKOROV MIRSHOD [KUCHKOROV MIRSHOD]				
授業科目区分	対象学生	理(数理・生化・地球)・2年次(理(物情))	対象年次	1~

持続可能な開発目標 (SDGs)



開設科目名(英訳)

理学部生のための知財入門(Introduction to Intellectual Property for students, Faculty of Science)

使用言語

日本語

概要(共通教育の場合は平易な授業案内)

知的財産基本法は、知的財産を「発明、考案、植物の新品種、意匠、著作物その他の人間の創造的活動により生み出されるもの、商標、商号その他事業活動に用いられる商品又は役務を表示するもの及び営業秘密その他の事業活動に有用な技術上又は営業上の情報」と規定しています。知的財産は、土地や机・椅子のように形がある財産(有体物)とは異なり、同時に別の場所で使用することも可能であり直接的支配が難しい無体物(アイデア等の情報)として存在しています。従って、権利の獲得、保護、活用の各局面で無体物としての特性に応じた権利者側のコントロールが必要になります。また、知的財産の受け手側にも、何処に知的財産が存在しどこまで利用できるのかという適切な判断が求められています。本講義では、受講者が知的財産の全体概要を理解するとともに、レポートや論文作成時に必要とする知的財産の知識など、身近な事例をテーマに概念の理解や初歩的な知的財産対応力の形成を図るものとします。

一般目標

本講義は受講者が、

1. 知的財産の全体像を理解すること
 2. レポートや論文作成時に必要とする知的財産の知識など、身近な事例をテーマに初歩的な知的財産対応能力を形成すること、
 3. 社会活動における知的財産の価値を実感すること、
- を目的としています。

授業の到達目標

知識・理解の観点	知的財産の全体像を把握することができる。
思考・判断の観点	知的財産に関する事象を、合理的に整理できる。
関心・意欲の観点	知的財産が関係する新たな事象等に、積極的に対応することができる。
態度の観点	知的財産に関して、関係者の真の利害関係を把握したうえで、自発的に適切な対応をすることができる。
技能・表現の観点	知的財産に関する各種の情報を体系的に検索し、その内容をまとめることができる。
その他の観点	自己の専門領域に関して、知的財産の知識とスキルを応用する基礎的な能力を獲得する。

授業計画

受講者が、身近に存在する知的財産の全体像を俯瞰できるように知的財産モラルまで含めた内容です。冒頭で、知的財産法の入門的内容を扱った後に、各種知的財産制度を具体的な事件をテーマに講義します。後半では、学生の学習領域に合わせた初歩的な対応力育成も考えた授業を行います。

【週単位】

※AL(アクティブ・ラーニング)欄に関する注

①A~Fのアルファベットは、以下の学修形態を指しています。

【A:グループワーク】、【B:ディスカッション・ディベート】、【C:フィールドワーク(実験・実習、演習を含む)】、【D:プレゼンテーション】、【E:振り返り】、【F:宿題】

②【多】、【中】、【少】は授業時間内におけるALが占める時間の割合を指しています。

【多】:授業時間の50%超、【中】:授業時間の15%~50%、【少】:授業時間の15%未満。「振り返り」と「宿題」については該当する場合に【あり】と表示されます。

項目	内容	授業外指示	授業記録	※					
				A	B	C	D	E	F
第1週	知的財産の全体像	数多く存在する知的財産の全体像を俯瞰するとともに、それらを三類型化して権利取得や保護活用の基本を学びます。知的財産に関する身近な話題を利用して知的財産の観点から検討を行います。		【中】(授業時間の15%～50%)	【少】(授業時間の15%未満)	【少】(授業時間の15%未満)	【少】(授業時間の15%未満)	—	—
第2週	著作権の基礎知識	著作権制度の沿革と著作権法で定められている権利の概要を学びます。この時間では、著作権制度の概要と著作物性の判定について詳しく説明します。		【中】(授業時間の15%～50%)	【少】(授業時間の15%未満)	【少】(授業時間の15%未満)	【少】(授業時間の15%未満)	【あり】	【あり】
第3週	著作権法に定められた権利	著作権法に定められた作者の権利、及び著作物を伝達する者の権利を説明します。		【中】(授業時間の15%～50%)	【少】(授業時間の15%未満)	【少】(授業時間の15%未満)	【少】(授業時間の15%未満)	【あり】	【あり】
第4週	著作権の権利制限・研究者マナー	著作権法に定められている権利制限規定を説明します。あわせて、研究者として研究を進める際のマナーあるいは具体的に原稿や論文を作成する場合の留意点を、主に知的財産の観点から学びます。ここでは、文章の引用、図表・写真の利用、データの収集並びに利用、思想(コンセプト)の利用など、研究遂行時に起こりうる事例を元に検討します。		【中】(授業時間の15%～50%)	【少】(授業時間の15%未満)	【少】(授業時間の15%未満)	【少】(授業時間の15%未満)	【あり】	【あり】
第5週	産業財産権の基礎知識(主に特許制度)知財情報検索・解析・活用・この部分はe-learningで実施します。	産業財産権制度の概要を説明します。中でも、特許制度を重点的に説明します。知的財産の内容(客体)を把握する際には、Web上のデータ検索を併用することが効果的です。ここでは、特許情報プラットフォーム(J-PlatPat)、山口大学特許検索システム(YUPASS)等の知的財産情報データベースの概要と検索方法を学びます。また、取得した情報の読み方と情報活用方法についても検討します。		【中】(授業時間の15%～50%)	【少】(授業時間の15%未満)	【少】(授業時間の15%未満)	【少】(授業時間の15%未満)	【あり】	【あり】
第6週	意匠制度	産業財産権の中で、物品のデザインを保護する意匠制度について説明します。		【中】(授業時間の15%～50%)	【少】(授業時間の15%未満)	【少】(授業時間の15%未満)	【少】(授業時間の15%未満)	【あり】	【あり】
第7週	商標制度	商品・役務の識別機能を担う商標制度について説明します。		【中】(授業時間の15%～50%)	【少】(授業時間の15%未満)	【少】(授業時間の15%未満)	【少】(授業時間の15%未満)	【あり】	【あり】
第8週	期末試験	ここまでで学習した内容を総合して、期末試験を行う。		【少】(授業時間の15%未満)	【少】(授業時間の15%未満)	【少】(授業時間の15%未満)	【少】(授業時間の15%未満)	【あり】	—

6.5ポイント

成績評価法

定期試験の評価は50%です。出席は欠格条件として判断します。

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	JABEE収集資料
定期試験(中間・期末試験)	◎	◎	—	—	—	—	50%	—
小テスト・授業内レポート	—	◎	◎	—	◎	—	30%	—
宿題・授業外レポート	◎	—	—	—	—	—	10%	—
授業態度・授業への参加度	—	—	—	—	—	—	—	—
受講者の発表(プレゼン)・授業内での制作作品	—	—	—	—	◎	—	10%	—
演習	—	—	—	—	—	—	—	—
出席	—	—	—	—	—	—	欠格条件	—
その他	—	—	—	—	—	—	—	—

ファイル名	備考
ルーブリック等の評価基準	設定されていません。

(注)ルーブリックとは、評価水準である「尺度」と、尺度を満たした場合の「特徴の記述」で構成される評価指標のことを言います。

教科書にかかわる情報

教科書	書名	これからの知財入門～変革の時代の普遍的知識～(第3版)	ISBN	978-4-296-10630-1	
	著者名	国立大学法人山口大学 研究推進機構 知的財産センター	出版社	日経BP社	出版年

教科書その他の情報

教科書は、山口大学生協で販売しています。

(注)教科書は必ず一回目の講義開始までに購入して、授業で持参してください。この教科書の中に、授業で使用するワークシートと宿題が入っています。授業時にそれを切り離して、課題を記入後に授業後半で回収します。欠席等で授業時点以外に提出することは、忌引き等の場合以外は認めていません。この提出と各回の評価は、そのまま成績評価に積み上げます。また、ワークシートと宿題シートをコピー等で提出することも、著作権の観点から認めていません。

参考書にかかわる情報

参考書その他の情報

メッセージ

学生さんの身近にある知的財産について、遠慮なく質問してください。場合によっては、その持ち寄ったテーマを利用して講義をすることもありますので、授業に積極的に関わることを期待します。

キーワード

知的財産、著作権、特許権、意匠権、商標権、不正競争行為、YFL

持続可能な開発目標(SDGs)

SDGs4(教育)すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する。

SDGs8(経済成長と雇用)包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する。

SDGs9(インフラ、産業化、イノベーション)強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る。

SDGs12(持続可能な生産と消費)持続可能な生産消費形態を確保する。

関連科目

連絡先

miru@yamaguchi-u.ac.jp ミルシヨド

オフィスアワー

宇部の常盤キャンパスで業務を行っています。

業務の都合で吉田キャンパスに出かけることもありますので、とりあえずはメールでご連絡ください。